

次期津市総合計画策定に向けた オープンディスカッションの開催報告

◆オープンディスカッションの目的

「総合計画」は、市民と行政が共にまちづくりを進めるために、めざすべき都市像やその実現に向けた取組の方向性を示すものです。今回のオープンディスカッションは、次期津市総合計画がより良いものとなるよう、市民の皆さんが日頃感じているまちづくりの課題やその解決に向けたアイデアなどをお聞きすることを目的として開催しました。

当日は、29名の方に参加いただき、「子育て、教育」(A班)、「福祉、保健・医療」(B班)、「都市空間、防災・消防、防犯・交通安全」(C班)、「農林水産、商工、観光、国際国内交流」(D班)の4つのテーマに分かれ、意見交換を行っていただきました。

◆開催概要

- 開催日 平成29年2月19日(日)
- 時間 13:00~16:00
- 場所 津センターパレス2階
津市中央公民館 ホール
- 参加者 29名

●次第

1. 開会
2. あいさつ(津市長)
3. 津市の現状等について
4. グループに分かれてのディスカッション
5. 意見・提案の発表
6. 総括(津市総合計画審議会会長 鶴岡氏)
7. 閉会

◆津市の現状等について

<次期津市総合計画の策定について>

- ・総合計画とは、市民と行政が共にまちづくりを進めるためにめざすべき都市像やその実現に向けた取組の方向性を示すもので、まちづくりの基本的な考え方を示す基本構想(計画期間を定めない)と、まちづくりの目標や方向性などを示す基本計画(計画期間10年間)で構成することとしています。
- ・策定手順については、津市総合計画審議会や市議会における意見に加え、今回のオープンディスカッションやパブリックコメントをはじめ、市民の皆様の声を幅広く伺いながら進めていくこととしています。

<合併後のまちづくりについて>

- ・津波避難ビルの指定や小中学校の大規模改造、4大プロジェクト等、合併時に約束されていたことや合併後に生じた新たな課題にも着実に取り組み、実現してきました。
- ・業務のスリム化・効率化により職員数を約2割削減し、市の借金である臨時財政対策債と合併特例事業債を除く合併時の市債残高983億円を平成27年度末時点で244億円にまで縮減するとともに、市の貯金にあたる財政調整基金を合併時の104億円から平成26年度末で200億円にまで積み増してきました。
- ・財政力指数は合併時の各市町村の平均0.49から0.74に改善しています。



<津市総合計画策定のための市民意識調査について>

- ・前回調査時と比較すると、津市への愛着度や定住意向、市政全般の満足度が上昇する結果となりました。

<今後の津市を取り巻く状況について>

- ・人口は今後20年で約4万人減少することが予想され、少子高齢化を伴う人口減少は経済や医療など様々な分野に影響を与えるものと考えられます。
- ・合併特例事業債や普通交付税の算定特例など、合併に伴う国からの有利な財政措置も平成32年度で終了します。
- ・社会福祉関係費は今後も増大し続けていくことが予想されます。
- ・高度成長期に集中的に整備した公共施設の多くが一斉に更新の時期を迎え、これらへの対応も必要となっています。

グループディスカッションの概要

★A班：子育て、教育

津市の良いところ

- 学校給食の評価が高い。
- 保健師や保育士をはじめ、地域で子育てに関わっている人々に熱意があり、意識も高い。
- 老人会、民生委員などが多く、高齢者が子どもを見守る体制がある。
- 保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携に力を入れている。
- 静かで落ち着いている。

津市の悪いところ

- 先進な取組が少なく、発展性がない。
- 津市自体に魅力がない。
- 車がないと生活できないうえ、歩道が無く危険な道も多い。
- 子育てと仕事の両立が難しい。
- 子どもたちが自主的に学習できる環境がなく、塾に頼る部分が多い。
- 地域間で格差がある。
- 地域との連携が十分ではない。

良いところを伸ばす

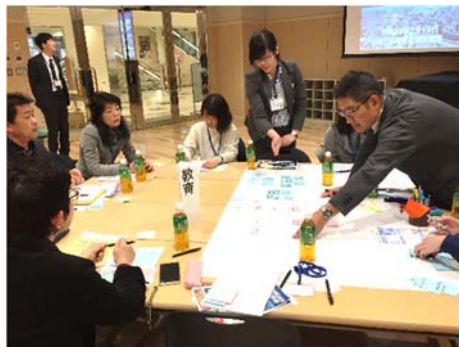
- 「市民の声」をスマートフォン用にアプリケーション化し、若い人を中心に市民の意見を積極的に聞く。
- 市民、行政、学校の取組について、先進的事例を積極的に取り入れる。

悪いところを改善・克服する

- 市民参画の場を増やす。
- 特色をつくり、市内外にアピールし、人を呼び込む。
- 学生の発信力を向上させる授業を学校に義務づける。
- 意見交換の場を設けるなどして、学校・行政・地域のつながりを強化する。
- 地域ごとに行っている良い取組を、情報共有できる機会を設ける。

【 まとめ発表 】

- 「化石のようなまち」と子どもから指摘されてしまうほど先進的な取組が少なく、あったとしても市民にほとんど知られていない。特色づくりやPR方法を考えるべき。
- 子どもたちに自分で考え、自分で意見を発信できる力がない。これは教育現場において、子どもたちが自分の意見を持ち、発信する機会がそもそも少ないことが要因だと思う。
- 子育ての問題は多様化しており、地域内で支え合う仕組みづくりが必要である。



★B班：福祉、保健・医療

津市の良いところ

- 元気で、健康に関心のある高齢者が多い。
- サークル・市民団体の活動が活発。
- 公民館や三重県総合文化センターでのイベントが多い。
- 障害者支援施設の数が多い。
- 福祉センターや地域包括ケアセンターの対応が行き届いている。

津市の悪いところ

- イベントへの参加者が少ないにもかかわらず、市民に十分呼びかけがされていない。
- 医療・福祉や公共交通などについて、都市部と中山間部で格差がある。
- 公共交通が不便。
- 福祉関係の人材が不足しているにもかかわらず、給与面などの待遇が良くない。
- 情報提供がうまくいっていない。

良いところを伸ばす

- これまで行われてきているさまざまな活動を継続させることに加えて、講座や講演を実施し広く周知・啓発する。
- 福祉の原点である「足の確保」に向けて、コミュニティバスのPRや送迎ボランティアの養成などを行う。
- 市民のイベントへの参加を促進する。

悪いところを改善・克服する

- さまざまな人々が交流し支え合い、活躍できる場をつくる。
- 移動販売車や移動図書館などを導入する。
- 地域特性に合った対策を考える。
- 必要としている人に必要な情報が伝わるように、フリーペーパーの配布や告知場所の増設などを行う。

【 まとめ発表 】

- 各地域での取組を継続していくため、効果的な広報のあり方や内容の充実を考える必要がある。また、イベントや活動に参加しやすくなるような工夫を行う必要もある。
- 都市部と山間部で格差があり、特に公共交通に関する格差が大きいとの意見が多く挙がった。各地域でのニーズを調査し、地域に応じた対応を行う必要がある。
- 施設面は充実しており、対応も迅速であるが、過疎地域を中心に福祉関係の人材不足が問題となっている。給与アップなどの待遇改善や就職希望者・養成学校に奨学金を出すなどの対策も効果的だと思う。



★C班：都市空間、防災・消防、防犯・交通安全

津市の良いところ

- 大門商店街がある。
- 大都市へのアクセスが良い。
- 「安らぎ」のあるまち。
- 避難訓練の実施や防災ガイドマップの作成が行われている。
- 自然が豊か。

津市の悪いところ

- 車がないと不便。
- 狭くて暗い道が多く、危険な箇所もある。
- 空家の増加や、建築物の老朽化が起きている。
- 個人商店や商店街が衰退している。
- 災害、特に津波に対する不安が大きい。
- 避難所が本当に安全なのか心配。

良いところを伸ばす

- 大門商店街をPRする。
- 新しいイベントの開催やこれまで行ってきたイベントの宣伝方法を工夫する。
- 看板やマップを作成し、日ごろから防災意識を高める。
- 自然体験のできる場所や機会を増やす。

悪いところを改善・克服する

- 公共交通を使いやすくする。
- 道を明るくしたり、ゴミ拾い活動を行ったりするなどして、より良い住環境を整える。
- 商店街を活性化する取組や支援を行う。
- 避難所や避難ルートの見直しを行い、災害に備える。

【 まとめ発表 】

- 大型商業施設の増加により商店街や個人商店が衰退してしまった。商店街のあり方を考え、個人商店を誘致したりPR活動を行ったりすることで商店街ににぎわいが戻ると思う。
- 都市圏へのアクセスは良いが、市内での移動は車がないと不便である。より住みよいまちとなるよう、バスの運行状況の見直しや「コンパクトシティ」の取組などを進める必要がある。
- 津波への不安は依然として高く、避難ビルの設置や防災林の整備が必要である。
- 全体的に道が暗い。駅前の道も狭く、危険な箇所が多くある。道を明るくしたり、歩行者専用・自転車専用道路を設けたりするなどして犯罪や交通事故を抑制することが必要である。



★D班：農林水産、商工、観光、国際国内交流

津市の良いところ

- 山・海・平地があり、おいしいうなぎや鹿肉、水が手に入る。
- 三重大学がある。
- 山間部の景色が良い。
- 適度にコンパクトなまち。

津市の悪いところ

- にぎわいの「核」となる部分がない。
- 目玉となる観光地や観光ルートがない。
- 一次産業に力がなく、耕作放棄地が増加している。
- 市民意識が低い。
- 山間部は車がないと不便。

良いところを伸ばす

- 三重大学の技術を活用し、マグロやうなぎなどの養殖施設を作る。
- 山林資源を活用する。
- 海産物や農産物を販売できる拠点を整備する。
- 地域資源をつなげてブランディングやPRを行う。

悪いところを改善・克服する

- 津市の文化活動を活性化させる。
- 観光拠点や軸をつくる。
- 市民と行政の協働により、市民意識を向上させる。
- 市民が主体となってPR活動を行う。

【 まとめ発表 】

- 「津産津消」の考え方で、効果的な津市のPRを検討する必要がある。
- 「知の拠点」三重大学があるが、卒業後、都心部へ流出する学生が多い。企業誘致を行って学生を津に留まらせるほか、三重大学と連携した取組の展開が必要である。
- のんびりした雰囲気がある一方で、新しいことに挑戦する人が少なく、変化に乏しい。時には外部の意見も取り入れ、市民自らが考えていける仕組みを作っていくべき。
- 各地域に魅力があり、それぞれで取り組んでいることもあるが、市全体としてのつながりがないため、他市・他県からは観光地がないと思われがちである。市全体の要素をつなげてのブランディングが必要である。

